



アルキメデス

飯田市美術博物館自然部門
地域史研究事業ニュースレター

HEUREKA! Vol.3 INADANI

ユリーカ! イナダニ

発行日 2006年12月1日
発行 飯田市美術博物館 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655
TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail hiruma@iida-museum.org

自然物のコレクション

四方圭一郎 (飯田市美術博物館)

いま飯田市美術博物館では「自然コレクション展 集める楽しみ・調べる魅力*」を開催しています。開館以来この18年の間に寄贈、寄託された、チョウや鉱物、化石などのコレクションのほか、学芸員が中心となって収集した標本を一同に展示するという企画です。問題意識の喚起などメッセージ性の薄い五目陳列ではありますが、これがなかなか面白いのです。

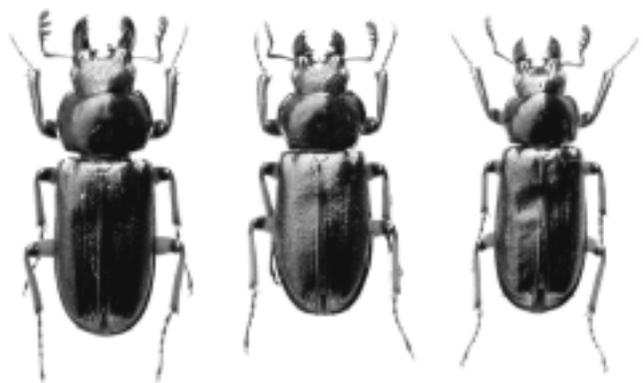
*2007年2月21日まで開催。



オオカミの化石を用いた復元全身骨格



スルガテンナンショウの押し葉標本



ルリクワガタ類3種 (長野県産)

博物館は標本などの資料を整理し保管する役割を担っていますが、普段の企画展ではこの点を前面に出すことはあまりありません。特にメッセージ性を強調したテーマの場合、内容は解説的になり、展示された標本にはそのテーマに即した意味を持たず場合が多くなります。そこで今回の展示ではメッセージ性を薄くし、標本を主人公にしてみました。

資料収集の本当の面白さは、標本をたくさん並べ、分類的にしたがって整理し分けていくという作業にあります。たとえ見栄えのしない小さな標本であっても、同じ種や近似の種を数多く並べることで、見えなかった形質、雰囲気の違い、個体変異などが手に取るようにわかるのです。「こんなそっくりな種類、よくパッと見分けられますね」と言われることがあります。分類の能力は「集める・調べる・比べる」という作業で培われたものだといえます。今回の展覧会では、そのような点も感じてもらえたらと思っています。

自然物のコレクションは、場合によっては乱獲や自然破壊につながることもあり、生き物の命を奪う昆虫採集などは、自然保護団体から目の敵にされたような時期もありました。しかし、自然界に深く切り込む手法として、コレクションという行為は推奨すべき一つの方法ではないかと思っています。

コレクションになりやすい対象となりにくい対象があるかもしれませんが、たった一つの標本を得るためにかき集める知識、磨かれる感性、行動力、得られたときに味わう満足感、幸福感は、ほかの手法ではなかなか得にくい感覚だと思います。そして、その感覚が自然を見るセンスを飛躍的に高めてくれるのだと考えています。

自然を愛する多くの方に、自然物のコレクションというアプローチ方法をもう一度見直してほしいと思います。自然により深く親しむために、まずは何かを系統立てて集めてみではいかがでしょうか。

ピックアップ HEUREKA!

濃ヶ池の復元にむけて

川上 陽一（平成17,18年度研究協力者）

はじめに

中央アルプスにある濃ヶ池は、氷河によって削られた窪地（カール）に、雪融け水などがたまってできた氷河湖です。日本の氷河湖はこの濃ヶ池のほかに、北海道など数箇所にしか見られない貴重な自然遺産です。

その濃ヶ池が近年著しく縮小化してきています。その原因として、県の報告書（1975）などでは、周囲から崩れた土砂が堆積したためと考えられてきましたが、私が行った調査では、むしろ池の水位が下がったことが縮小の主な原因であることがわかりました。

池の水はここ90年で急に減った

1913年（大正2年）に発行された『伊那路』という本の中に濃ヶ池の古い写真が載っています（写真1）。



写真1：大正2年当時の濃ヶ池。
左の岩に2人登山者が座っている。

現地で照らし合わせてみると、現在の池の水位よりも約45cm高かったことがわかりました。

さらにいくつかの古い写真を手に入れてその時々水位を調べてみますと、大正時代末期が約40cm、昭和20年代が約20cm、昭和40年代になると約10cmと、だんだん時代が近づくにつれて水位が下がってきたこともわかりました。

反対に、大正時代よりももっと古い時代はどうだったのか。そんなに古い写真があるのかというと、やはりなかなかありません。でも写真はなくても、今度はチズゴケという地衣類を調べると推測できるのです。

チズゴケという植物は標高の高い所にある岩の表面などに付着して生きていて、その成長速度が大変遅いことで知られています。30年で直径3cmという報告もあります。

濃ヶ池の周りにはたくさんの花崗岩が転がっていますが、その岩の表面に付着しているチズゴケを観察すると、ある一定の高さから下はほとんど成長していません（写真2）。

チズゴケは水中では生きられないので、チズゴケがない部分はいずれ最近まで水中だったことがわかります。最近といっても何十年という長さですが。チズゴケがない部分とある部分の境目を横につなげていくと、見事に昔の池の水面が浮かび上がってきます。その高さを測ってみると、写真1と同じ45cmだったのです。

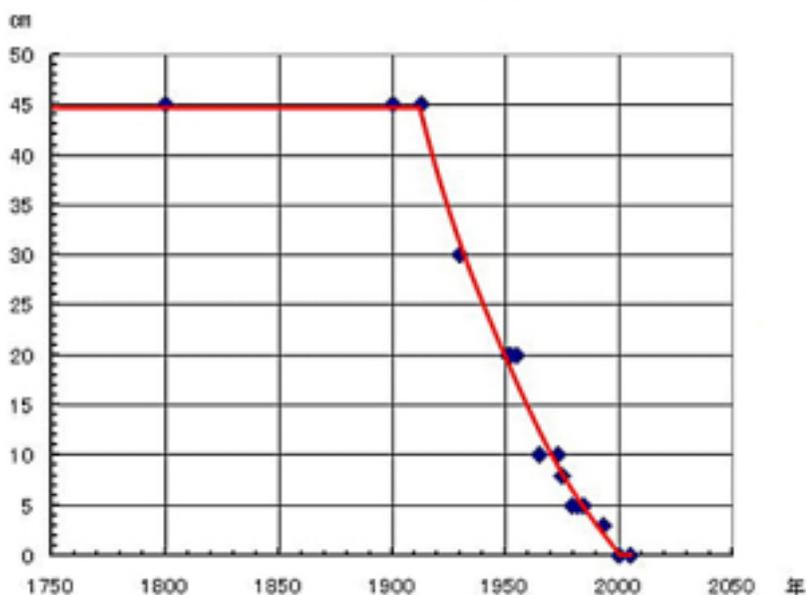
2つのことをまとめてみますと、池の水位はおそらく何百年という長い間ずっと45cmの高さを保っていたのに、大正時代以後、急に水が減ってきたということなのです（グラフ）。**水が減ったのはなぜ？**

それでは、なぜ水が減ってしまったのでしょうか。池や湖の水が減る理由として考えられるのは、ふつう土手の決壊です。私は濃ヶ池には大きく2回の土手の決壊があったと考えています。1度目は大正時代に北の土手が低くなって水が減ったとき。2度目は昭和30年代ごろに南の土手が切れて、そこから大量の水が流れ出してしまったときです。

現在の濃ヶ池の水は南側から流れ出ていますが、昔は反対側の北の出口からでした。この



写真2：花崗岩に付着したチズゴケ。上部の濃い灰色の部分がチズゴケの付着範囲。



グラフ：濃ヶ池の水位変化（2000年を0とした）
：写真判定（実測）値

ことは古い研究論文や写真、あるいは年記者の記憶などから間違いありません。それが、昭和30年代になって水の出口が南に変わってしまい、一気に水位が低下したと考えられます。しかも、その2度の転換期は登山ブームとみごとに重なると私は思っています。

つまり、明治の末に日本山岳会が設立されてから、登山を楽しむ人が急に増えた大正時代が1回目、2回目は昭和30年代、ヒマラヤのマナスル登頂を受けて、日本に一大登山ブームが沸き起こった時期にあたります。これは単なる偶然でしょうか。多くの登山者が池の土手を歩いたために、そこが軟弱になりやがて決壊したとは考えられないでしょうか。

濃ヶ池の復元

最後にもう一度、大正時代初期の濃ヶ池の写真を見ていただくと、ハイマツやダケカンバの緑が映った水面に見とれている登山者が写っているのがわかると思います。自分もあそこに腰をおろしてみたいとは思いませんか。

もしも本当に、私たち人間がわずか90年の間にそれを壊したのであれば、直ちにそれをくい止め、もとの姿に復元していくことが、私たちの責務だと思います。濃ヶ池を復元する運動に、あなたも参加しませんか。 (筆者住所 〒399-3802 中川村片桐4611-6)

お知らせ

美博特別陳列

「集める楽しみ、調べる魅力 - 美博の自然コレクション展 - 」開催中！！

0.1ミリの放散虫から5メートルのゾウ化石まで、哺乳類、昆虫、植物、骨、化石、鉱物など当館の自然コレクションを大公開！変わったもの、美しいもの、いろいろな標本たちが、みなさまをお待ちしております。

展示期間 2006年11月18日(土)～2007年2月21日(水)

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

観覧料 一般310円(210円)、高校生200円(150円)、小中学生100円(80円)

()は20人以上の団体*小中高生は2006年人形劇フェスタワッペン提示で無料

講演会 「山の獣がせめてくる」

講師：岸元良輔さん(長野県環境保全研究所主任研究員)、泉山茂之さん(信州大学農学部助教授)

今年のツキノワグマの異常出没のことや、農林業被害が深刻化しているサル、イノシシ、シカなどの問題について、専門家お二人の講演を聴いたあと、講演者を交えての意見交換をします。

日程：12月9日(土) 午後1時30分～4時、会場：飯田市美術博物館 2F 講堂(入場無料)

共催：伊那谷自然友の会

第11回 伊那谷自然史発表会 研究発表者募集！

中学生から大人まで伊那谷の自然好きが顔をそろえる発表会です。一年間暖めてきた調査・研究発表の他、テーマを持った写真の発表、海外旅行や登山の報告など、自由に気楽に発表してみませんか？

日程 2007年2月18日(日) 詳細はプログラム作成後決定します。

発表申し込み 2月1日(必着)までに美術博物館蛭間宛に郵便、FAX、E-mailなどで下記の項目をお知らせください。なお、発表者には追ってB5一枚ほどの要旨を提出していただきます。

- 1.発表者(団体)名、2.発表者(団体発表者)住所・電話(あればFAX・E-mailアドレス)
- 3.発表タイトル、4.発表の形式(口頭発表、ポスター発表、口頭・ポスター両方のどちらか)を選択、
- 5.口頭発表につきましては、スライド、OHP、プロジェクターなどの使用機材もお知らせください。

問い合わせ・申し込み

〒395-0034 飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館 蛭間・村松・四方

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 E-mail hiruma@iida-museum.org

主催 飯田市美術博物館・伊那谷自然友の会